



カラスウリの花



八坂神社境内
ちょうちん火入れ



まなび館 和楽コンサート
山口祇園囃子保存会



野田学園箏曲部



ミ二縁日

8月6日「つながる大殿七
たちょうちんの灯」では、
歴史を大切に受け継ぎ、地
域のつながりにより灯され
た祭りの風情をお楽しみく
ださい。



つながる大殿七たちょうちんの灯

室町時代、大内盛見が先祖の冥福を祈り、七日盆の夜に笹竹の高灯籠を灯し、精霊の迎え火としたのが、町の家々に広まり、「山口七たちょうちんまつり」として受け継がれたと伝えられます。8月6、7日の両日、竹竿につるした鈴なりの紅ちようちんに火を灯すと、山口市中心商店街に火のトンネルが現れ、幻想的な美しさに包まれます。

8月6日は「つながる大殿七たちょうちんの灯」を開催。築山神社で大内氏歴代の御霊をお迎えする「なごめ祭り」、火起こしの儀が執り行われ、八坂神社境内や豎小路界隈を中心に灯を広げ、伝承センターも会場となります。

<伝承センター会場>

19:00～ 和楽コンサート
(箏曲・祇園囃子演奏、合唱)

19:30～ ミ二縁日

まちづくりNEWS ◆ミ二暮音小路◆

大殿地区の歴史副読本づくりがスタート

大内文化街道まちなみ協議会では、大内文化特定地域とその周辺地域を対象に、現代に至るまで繰り広げられた多くの物語にスポットを当て、エピソードを中心に「副読本」を2年間かけてまとめます。

史実からみる街並みの変遷や、それぞれの時代に生きた人々の想いと暮らしぶりをメッセージとして現代に生きる私たちに伝え、今後の街のあり方を考える際の資料としても活用できればと思います。

皆さんのお宅に戦前の古い街並みやお祭りの写真がありましたら、是非ともご提供、ご協力下さい。(ご連絡は 928-3333 小田、武永まで)

指定管理者 ～NPO 法人山口まちづくりセンター～

⑧明倫館

山口大学の前身。旧公設市場の地にあった山口講習堂は文久元年（1861）亀山東麓に移転。同3年山口移鎮に伴い山口明倫館と名を改め、藩の学問・教育の拠点となり、優れた人材を輩出しました。現在県立美術館があるこの地には文学寮が置かれました。

⑨兵学講

山口明倫館兵学寮。歩兵・騎兵・砲兵の三兵塾があり、大村益次郎が西洋兵学を講義しました。

⑩善生寺

浄土宗。かつて西久寺といい松の木町にあったといわれ、天正年間（1573～92）曼陀羅寺と改号、慶長年間（1596～1615）今市に移り善生寺に改め、明治3年向山の周慶寺跡地に移転しました。

⑪御客屋

山口移鎮に伴い他藩からの重要な使者等の応接・宿泊所として、慶応3年（1867）今道に山口客館が新築されました。明治5年山口第一小学（白石小学校の前身）となった後、明治9年山口地方裁判所が開庁、門は昭和42年頃常栄寺に移築されました。

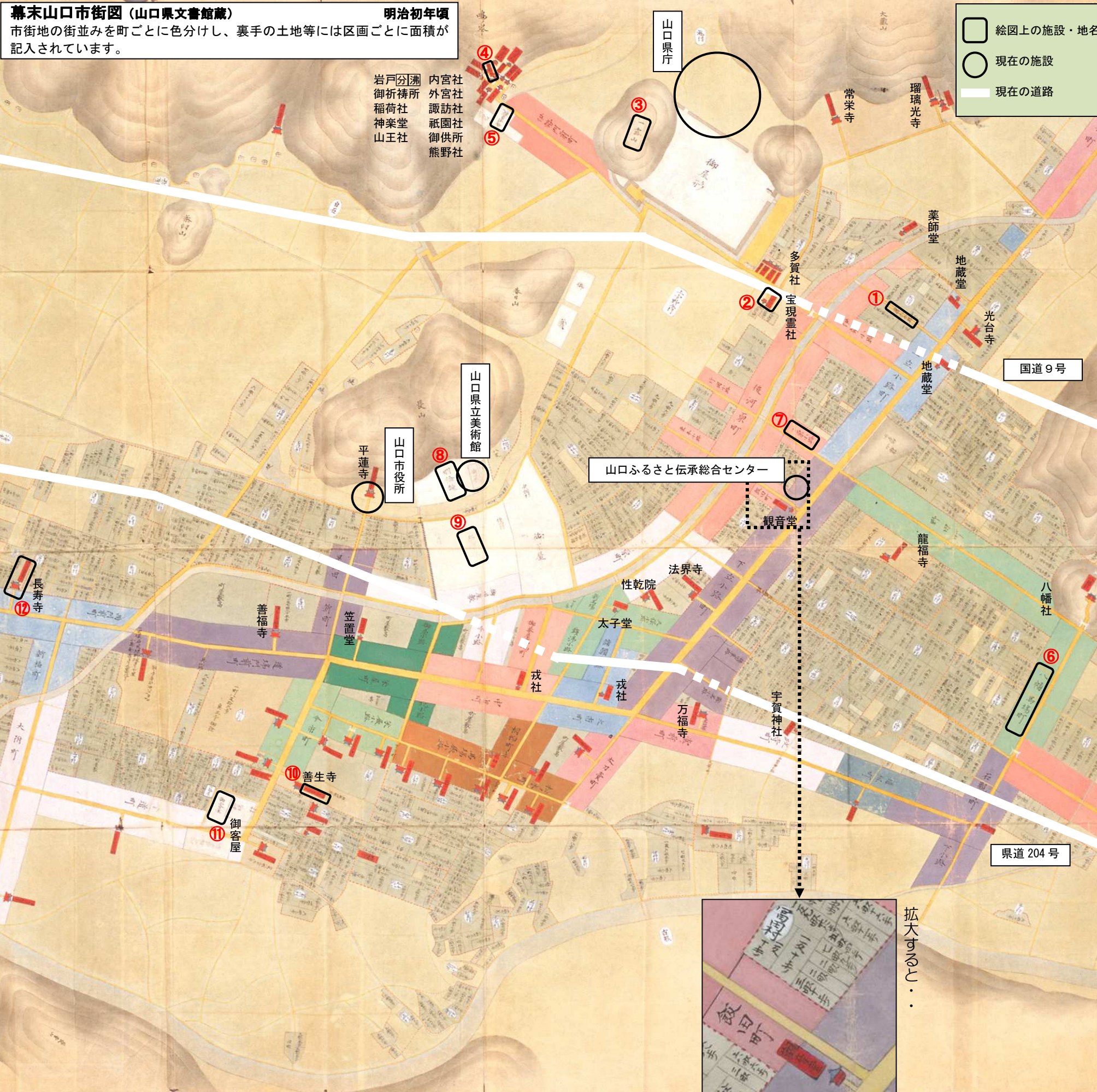
⑫長寿寺

浄土宗。かつて慈観堂といい、大永2年（1522）大内義興が重病に罹った折、平癒を祈願すると靈験あらたかにより、お堂を建立し長寿寺に改号。高杉晋作が挙兵し内訌戦が始まった際、慶応元年（1865）御楯隊の駒井政五郎らは長寿寺を本部に鴻城軍を結成、井上馨を総督としました。兵員増加により屯所は常栄寺（現洞春寺）に移転しました。

近世山口の町

大内時代の「山口四十八小路」を受け継いだ江戸時代の山口は（『防長風土注進案』では54町）、軒を連ねる街道筋が交わり、「向こう三軒両隣」——道をはさんだ両側を一つの町として、コミュニティを形成していました。

大市から道場門前にいたる4町では、道路は市が立つ場ともなり、間口の広い店舗も設けられていたようです。絵図には大市と中市に商売繁盛の神「えびす様」を祀る戎社がみられます。



①唐人小路

大内時代に外国館があったと伝えられます。幕末、一つ橋たもとにあった藩の養蚕局で、品川弥二郎らがひそかに錦の御旗を作らせました。

②宝現霊社

慶長10年（1605）毛利輝元が多賀社境内に大内義隆、公卿等を祀り創建。その後龍福寺境内に移転、文政11年（1828）この地に移りました。明治2年興隆寺境内から八坂神社そばに移転した東照宮社殿を、明治3年本殿として、築山神社と改称しました。市文化財指定される見込みです。

③一露山（丸山）

かつてここに時鐘があったようです。山口移鎮の際、御屋形の一角にあたるこの小山のふもとに、藩主毛利敬親が茶室露山堂を設け、討幕の密議をこらしました。廃藩後、露山堂は移築を経て明治24年香山公園に移されました。丸山は県庁舎新築にあたり昭和52年取り除かれ、跡地は県庁前庭として整備されました。

④熊野社

宝徳2年（1450）紀州より東山猿木の地に勧請（後にこの地は古熊野と呼ばれ、いつしか「古熊」に）、永正17年（1520）鴻ノ峰麓に遷されました。明治8年同じく大神宮境内にあった山王社とともに江崎へ遷されました。

⑤御用屋敷

大神宮門前、五十鈴川に沿って建てられた毛利元徳の屋敷・五十鈴御殿にあたります。隣に安子夫人（銀姫）の居室があり、慶応元年（1865）奥女中となった吉田松陰の妹・文（美和）が勤めていました。

⑥八幡馬場町

北の突き当たりは今八幡宮があり、馬場とはその前の広場のこと。赤十字病院東側の道路一帯。幕末、今八幡宮社務所は志士達の拠点となり、文久3年（1863）堀真五郎を総督として「八幡隊」を結成、四境戦争などで活躍しました。南端の石州街道との交差点付近に鳥居があり、道路拡幅に伴い今八幡宮石段踊り場に移設されました。

⑦石原小路

北側には幕末、諸隊会議所がありました。奇兵隊をはじめとする諸隊が藩保守派に対抗する中で、隊長達の急な集会にも便利な場所として設けられました。

8月スケジュール

教室 OB会

日	月	火	水	木	金	土
7/30	31	1	2	3	4	5
七夕飾り〜8/7		陶芸A トール	陶芸A	陶芸B 和裁	レザー① 大内塗	陶芸B 手織 大内塗 着付 鶏流
6	7	8	9	10	11	12
大毬七夕 ちょうちんの灯	和裁		染色	和裁 レザー③	手織	
13	14	15	16	17	18	19
	休館日				手織	シルクスクリーン版画体験 大内塗 着付 鶏流
20	21	22	23	24	25	26
こども茶の湯	和裁	トール		和裁 レザー③	手織	鶏流 竹細工
27	28	29	30	31	9/1	2
竹割講習会 竹細工 こども茶の湯	そば打ち体験 和裁		竹割講習会 竹細工	和裁		

ものづくり講座・体験等のご案内

夏休みものづくり体験・シルクスクリーン版画

自分でデザインして簡単な切り絵の版を作り、布に染料でプリントします。

日時：8月19日（土）①10:00~12:30
②13:30~16:00

対象：小学生①②各回先着20名（組）
（3年生以下は要保護者同伴）

材料費：1000円



そば打ち体験

打ったそば3人前をお持ち帰り
日時：毎月最終週、8月は28日（月）13:30~16:00
定員：14名（抽選にて選定）
体験料：1,000円（材料費含む）



申込は随時受け付けます。

（そば打ち体験受付は8月20日（日）まで）

竹の割り方・剥ぎ方技術講習会

竹の割り方・剥ぎ方の基本を学びます。
日時：日曜コース：8月27日、9月3日・17日
水曜コース：8月30日、9月13日・27日
いずれも9:30~11:30

講師：田中 勉氏（竹細工研究家）
定員：両コース合わせて先着20名
受講料：3000円（3回コース）



「雪舟、墨ちゃん」Tシャツ販売してます

水墨画家・雪舟の世界を身近に、さらに親しんでいただくとの思いから生まれた「やまぐち雪舟、墨ちゃん」グッズ（やまぐち雪舟考房）のTシャツ販売を始めました。サイズは110~140cm、ホワイトとグレーの2色あり980円です。お子さんやお孫さんのお土産にもどうぞ。



ロゴデザイン

布ぞうり講座を開催しました

6月24日、25日伝承センターで「布ぞうり講座」を開催。素足で布ぞうりを履き、夏を快適に過ごしてもらおうと、矢野喬先生（布草履工房主宰）より指導いただき、古布を使い布ぞうりを編む技術を16名の方が学ばれました。

前緒・鼻緒を作るのに手こずったり、またぞうりの幅が均等になるように編み進めますが、途中でひょうたんのようになっていたりみなさん苦労されていました。

一日で一足作ってもらうため、かなり急いで前に進み受講生の方は大変そうでしたが、その分出来上がった時の満足度は大きいものだったようです。



山東省より視察団が来館されました

山口県と友好協定を締結して35周年を迎える中国・山東省から、郷村リーダー日本交流視察団計約300名が、7~8月にかけて山口県を訪問することになり、7月10日には約60名が伝承センターに来館。大内塗の工房、各館を見学され、文化交流の機会となりました。

山口ふるさと伝承総合センター発行

〒753-0034 山口市下野小路12
TEL 083-928-3333 FAX 083-932-1877
E-mail y-densho@c-able.ne.jp
URL http://y-densho.sblo.jp/

館内見学時間
9:00~17:00
入場料 無料